

# Genspark スーパーエージェント、OpenAI Deep Research、 Manus AI：次世代 AI エージェント比較レポート



Genspark

Apr 12, 2025

情報

ブックマーク

共有

インスピレーションと洞察から生成されました [15 ソースから](#)

これまでの調査結果に基づいて、Genspark スーパーエージェント、OpenAI Deep Research、Manus AI の各サービスの詳細な比較を行ったレポートを作成します。

目次

- [1. 概要](#)
- [2. 各サービスの基本情報](#)
  - [○ Genspark スーパーエージェント](#)
  - [○ OpenAI Deep Research](#)
  - [○ Manus AI](#)
- [3. 多角的比較分析](#)
  - [○ 検索精度](#)
  - [○ 応答速度](#)
  - [○ 対応分野と使用事例](#)
  - [○ UI/UX](#)
  - [○ 連携機能](#)
  - [○ 価格・料金体系](#)
  - [○ 日本語対応状況](#)
- [4. ビジネス・研究用途の適性評価](#)
  - [○ ビジネス利用適性](#)
  - [○ 研究用途適性](#)
- [5. Google 等の未参入企業の動向](#)
  - [○ Google の AI エージェント戦略](#)
  - [○ その他主要企業の動向](#)
- [6. AI エージェントの将来展望](#)

- [技術的進化の方向性](#)
- [日本市場での展開予測](#)

## 7. [まとめ](#)

### 1. 概要

本レポートでは、次世代 AI エージェント技術の最前線を行く 3 つのサービス、「Genspark スーパーエージェント」「OpenAI Deep Research」「Manus AI」について多角的に比較・分析します。これらのサービスは単なる検索や情報提供にとどまらず、自律的なタスク実行、複雑な情報の収集・統合・分析、そして意思決定の支援を行う新世代の AI ツールです。特に日本語対応を重視した観点から、ビジネス利用と研究用途の両面で、各サービスの強みと弱み、活用シナリオを詳細に検証します。さらに、Google をはじめとする AI エージェント市場への未参入の大手テクノロジー企業の動向も踏まえ、この分野の将来展望についても考察します。

### 2. 各サービスの基本情報

#### Genspark スーパーエージェント

Genspark スーパーエージェントは、検索と情報統合に特化していた Genspark が 2025 年に発表した自律型 AI エージェントです。特徴的なのは「Mixture-of-Agents」アーキテクチャを採用し、8 つの大規模言語モデルを組み合わせ、タスクに応じて最適なモデルを動的に割り振ることで、多様な業務の効率的処理を実現している点です [Yorozuipsc.com](#)<sup>1</sup>。

Genspark スーパーエージェントの主な機能は以下の通りです：

- ユーザーのクエリに基づいた情報収集と統合
- カスタムの Sparkpage（要約・概要ページ）の生成
- 複数の情報源から信頼性の高い結果の提供
- 広告・スパムや偏った情報の排除
- 自律的なタスク実行（例：航空券の予約、商品の購入など）
- 電話自動発信機能による現実世界とのインタラクション

[Genspark](#)<sup>2</sup> が提供するこの AI エージェントは、GAIA ベンチマークにおいても他の AI エージェントを上回る性能を示すと報告されています。

#### OpenAI Deep Research

OpenAI Deep Research は、ChatGPT の拡張機能として 2025 年 2 月に発表された高度なリサーチツールです。OpenAI の最新モデル「o3」を基盤とし、ウェブ閲覧機能、Python 実行環境、画像・PDF 解析ツールなどを一元的に統合したシステムとして設計されています [Qiita](#)<sup>3</sup>。

主な機能は以下の通りです：

- 複数の情報ソースからの自動データ収集・解析
- マルチステップの調査プロセスによる深い洞察
- ファイル解析機能（PDF、画像、表計算ファイル等）

- 内蔵 Python 環境を利用した高度なデータ処理
- 情報の根拠と出典の明示による信頼性の担保

Deep Research は、特に金融、科学、政策、エンジニアリングなど専門性の高い分野での活用を想定しており、複雑な情報の統合と分析に高い能力を発揮します。

### Manus AI

Manus (マヌス) AI は、中国のスタートアップ Monica によって開発された完全自律型の AI エージェントで、2025 年初頭に世界的な注目を集めました。Anthropic の Claude 3.5 Sonnet や Alibaba の Qwen などの大規模言語モデルを活用し、内部に「プランナー」と「実行者」の役割を持つ複数の AI が協力して動く仕組みが特徴です TechTrends<sup>4</sup>。

主な機能としては：

- 自律的な目標達成（ユーザーが目標を設定するだけでタスクを自ら計画・実行）
- 複数の高性能言語モデルの活用
- 内部での役割分担による効率的タスク実行
- 外部ツールとの連携（ウェブブラウザ操作、Excel 処理、コード実行など）
- クラウド上での非同期処理によるバックグラウンド実行

Manus は特に旅行計画の全行程管理、金融分析とレポート作成、教育コンテンツ作成、保険比較などの分野で高い能力を発揮すると報告されています。

## 3. 多角的比較分析

### 検索精度

**Genspark スーパーエージェント：** Genspark スーパーエージェントは「高速、正確、制御可能」という評価基準を掲げ、特に検索精度においては複数の情報源からデータを収集・統合する能力に優れています。国内情報、特に日本語文献の網羅性では他のサービスより優位性があるとされています Note<sup>5</sup>。また、シンプルなクエリには小型モデル、複雑なタスクには大型モデルを選択的に活用することで精度と効率のバランスを実現しています。

**OpenAI Deep Research：** Deep Research は、専門分野における検索精度で高い評価を得ています。端到端強化学習 (RLHF) を活用した高度な情報収集機能と、専門知識を要する分野での精度の高さが特徴です。特に学術研究や専門的な分析においては、複数の情報源から得られたデータの整合性チェックと統合能力が評価されています Qiita<sup>3</sup>。

**Manus AI：** Manus は、GAIA ベンチマークで約 65%超のスコアが報告されており、情報検索よりも自律的なタスク実行に重点を置いています。特に、ウェブ上で人間が行うような複雑なタスクの解決（例：Tesla などのデータから Excel シートを作成し分析するなど）に強みがあります TechTrends<sup>4</sup>。

**総合評価：** 検索精度という点では、OpenAI Deep Research が専門分野の深い調査で最も優れており、Genspark スーパーエージェントは特に日本語コンテンツと多様な情報源の統合で強みを発揮します。Manus は検索そのものよりも収集した情報に基づく自律的なタスク実行が強みとなっています。

## 応答速度

**Genspark スーパーエージェント**： Genspark は「高速」をキーワードの一つに掲げており、タスクの複雑さに応じて適切なモデルを選択することで応答速度を最適化しています。特に日常的な情報検索では、小型モデルを優先的に使用することで高速なレスポンスを実現しています [Yorozuipsc.com1](#)。

**OpenAI Deep Research**： Deep Research はリサーチ品質を優先しており、複雑なクエリの処理に 3~5 分程度を要する傾向があります。ただし、このプロセスが人間の手作業に比べれば劇的に速いという点で評価されています。特に大量のデータを扱う調査では、並列処理による効率化も実現しています [Qiita3](#)。

**Manus AI**： Manus は非同期処理を採用しており、複雑なタスクはバックグラウンドで実行され、完了後に結果が通知される仕組みです。そのため即時応答型のインタラクションには向いていませんが、複雑なタスクを時間をかけて正確に処理する形態を取っています。この点は、他の 2 つのサービスとは異なるアプローチといえます [TechTrends4](#)。

**総合評価**： 応答速度の観点では、Genspark スーパーエージェントが最も高速なレスポンスを提供する傾向にあります。OpenAI Deep Research は処理時間が比較的長いものの、その分析の深さと品質で均衡を取っています。Manus は即時性よりも非同期処理による正確なタスク実行に重点を置いた設計となっています。

## 対応分野と使用事例

**Genspark スーパーエージェント**： Genspark スーパーエージェントは幅広い分野に対応していますが、特に以下の分野での活用が報告されています：

- 市場調査や製品調査
- 旅行計画や業務のスケジュール管理
- 研究に必要な情報収集と統合
- 具体的なアクションを伴うタスク（予約や購入など）
- 日本語文献・情報の網羅的収集

特に電話自動発信機能を持つため、予約や問い合わせなど実世界との連携が必要なタスクに強みがあります [Genspark6](#)。

**OpenAI Deep Research**： Deep Research は以下のような分野に特化した能力を持ちます：

- 大量のオンライン情報を自動収集した包括的なリサーチレポート作成
- 各種ファイル（PDF、画像、表計算ファイル）の解析と要約
- Python 環境を利用した高度なデータ解析やビジュアライゼーション
- 科学・金融・政策などの専門分野における分析

大学院レベルの研究や専門的なビジネス分析など、高度な情報処理が必要な場面での活用が想定されています [Qiita3](#)。

**Manus AI**： Manus は以下のような具体的な利用シナリオでの活用例が報告されています：

- 旅行計画の全行程管理（観光地調査、予約、旅程表作成）

- 金融分析とレポート作成（株価分析、競合分析など）
- 教育コンテンツ作成（説明ビデオの脚本作成、図解など）
- 保険比較と最適提案
- ウェブサイト制作（デザイン提案、SEO 対策など）

特に複雑な作業工程を一貫して自動化する能力が高く評価されています TechTrends<sup>4</sup>。

**総合評価：** 対応分野という観点では、Genspark スーパーエージェントは日本語コンテンツへの対応と実世界連携に強み、OpenAI Deep Research は専門的・学術的分野での深い分析に適しており、Manus は複雑な作業工程の自動化と実践的タスク実行に特化しています。

## UI/UX

**Genspark スーパーエージェント：** Genspark スーパーエージェントは、直感的なインターフェースと Sparkpage という独自のカスタムページ生成機能を特徴としています。ユーザーは通常の検索のように質問を入力するだけで、関連情報をまとめた包括的なページが生成されます。また、情報の編集・追加ができるインタラクティブな機能も備えており、ユーザーの操作性を重視した設計となっています Genspark<sup>2</sup>。

**OpenAI Deep Research：** Deep Research は、ChatGPT のインターフェース内に統合されており、通常の会話の延長として使用できます。ユーザーはリサーチしたいトピックを入力すると、AI が調査プランを提案し、承認後に自動で調査を実行する流れです。結果はセクション分けされた構造化されたレポート形式で提供され、各情報には出典が明示されるため、情報の検証が容易です Qiita<sup>3</sup>。

**Manus AI：** Manus は、思考プロセスの可視化機能を備えており、AI がどのようにタスクを分解し、判断・行動しているかをリアルタイムで確認できる透明性の高いインターフェースを提供しています。また、非同期処理を基本としているため、タスク実行中も他の作業が可能で、完了通知を受け取るワークフローを採用しています。2025 年 4 月からはモバイルアプリも提供されるようになり、アクセシビリティが向上しています Bloomberg<sup>7</sup>。

**総合評価：** UI/UX の観点では、Genspark スーパーエージェントは直感的で情報の編集や追加が容易、OpenAI Deep Research はシンプルで馴染みやすい ChatGPT インターフェースの延長線上にあり、Manus は思考プロセスの透明性と非同期処理による柔軟な作業環境を提供しています。ユーザーの利用文脈や優先事項に応じて、最適なインターフェースは異なるでしょう。

## 連携機能

**Genspark スーパーエージェント：** Genspark スーパーエージェントの大きな強みは、外部サービスやツールとの連携機能です。特筆すべきは電話自動発信機能で、予約や問い合わせなど実世界とのインタラクションが可能です。また、複数の AI エージェントが協調して働く「Mixture-of-Agents」アーキテクチャにより、異なるタスクを同時に処理する柔軟性も備えています Yorozuipsc.com<sup>1</sup>。

**OpenAI Deep Research：** Deep Research は、特に Python 実行環境との連携が強力で、デ

ータ解析やグラフ生成などのコード実行が可能です。また、PDF や画像、表計算ファイルなど多様なファイル形式の解析機能も統合されています。さらに、ウェブ上の情報とユーザーがアップロードした文書を統合的に分析できる点も特徴です [Qiita3](#)。

**Manus AI**： Manus は外部ツールとの連携に優れており、ウェブブラウザの自動操作、Excel などでデータ処理、プログラムコードの実行などが可能です。内部での役割分担（「プランナー」と「実行者」）による効率的な処理と、クラウド上での非同期実行により、複雑なタスクを背後で着実に進行させる能力を持っています [TechTrends4](#)。

**総合評価**： 連携機能では、Genspark スーパーエージェントは実世界とのインタラクション（電話発信など）に独自性があり、OpenAI Deep Research はデータ解析とファイル処理の統合で優れています。Manus はウェブ操作の自動化と非同期処理による連携の幅広さが特徴です。用途によって最適な選択肢は異なります。

### 価格・料金体系

**Genspark スーパーエージェント**： Genspark スーパーエージェントは、現在 Beta 版として提供されており、基本機能は無料で利用可能です。有料プランとして Plus プランが存在し、より高度な機能や使用制限の緩和が含まれていますが、具体的な価格は公式情報からは明確になっていません [Genspark8](#)。

**OpenAI Deep Research**： Deep Research はもともとプロ向け有料機能として月額 200 ドル（約 3 万円）の ChatGPT Pro プランのみで提供されていましたが、最近は ChatGPT Plus（月額 20 ドル、約 3,000 円）のユーザーにも月 10 回の制限付きで利用可能になりました。特に高度な利用が必要な場合は Pro プランが推奨されています [ITmedia9](#)。

**Manus AI**： Manus は 2025 年 4 月からサブスクリプションモデルに移行し、月額 39 ドル（約 5,800 円）の基本プラン（Starter プラン）と、月額 199 ドル（約 3 万円）のアップグレード版（Pro プラン）を提供しています。基本プランでは月間 3,900 クレジットが付与され、高度な機能を利用するには Pro プランが必要です [Bloomberg7](#)。

**総合評価**： 価格面では、Genspark スーパーエージェントが現時点では最もコストパフォーマンスが高く、基本機能は無料で利用可能です。OpenAI Deep Research は月額 20 ドルの Plus プランでも限定的に利用できるようになりましたが、フル機能は月額 200 ドルの Pro プランが必要です。Manus は Starter プラン（月額 39 ドル）と Pro プラン（月額 199 ドル）の 2 段階の料金体系を提供しています。

### 日本語対応状況

**Genspark スーパーエージェント**： Genspark スーパーエージェントは日本語に完全対応しており、ユーザーインターフェース、検索機能、生成コンテンツのすべてが日本語で利用可能です。特に日本語文献の網羅性や国内情報の収集・分析において高い評価を得ており、日本市場向けに最適化されたサービスといえます [Genspark10](#)。

**OpenAI Deep Research**： OpenAI Deep Research も日本語対応しており、日本語での指示や質問に対して日本語でレポートを作成することが可能です。ただし、開発元である

OpenAI が英語圏の企業であることから、英語の情報ソースに対する精度と比較すると、日本語コンテンツでの網羅性や分析の深さにはややばらつきがある場合があります Qiita<sup>3</sup>。

**Manus AI:** Manus はインターフェースとしては日本語対応しており、日本語でのタスク指示や結果出力が可能です。しかし、中国発のサービスであるため、日本語コンテンツの処理精度や特に日本固有の情報・サービスとの連携においては、改善の余地がある部分もあります TechTrends<sup>4</sup>。

**総合評価:** 日本語対応という観点では、Genspark スーパーエージェントが最も充実しており、特に日本語文献や国内情報の収集・分析において優位性を持っています。OpenAI Deep Research も日本語対応していますが、英語コンテンツと比較すると精度に差がある場合があります。Manus は基本的な日本語対応はしているものの、日本特有の情報源やサービスとの連携においては他の2つに比べてやや見劣りする可能性があります。

#### 4. ビジネス・研究用途の適性評価

##### ビジネス利用適性

##### Genspark スーパーエージェント :

Genspark スーパーエージェントは、ビジネス利用において以下の点で高い適性を示しています :

- **市場調査・競合分析:** 複数の情報源から信頼性の高いデータを収集・統合する能力により、包括的な市場分析や競合調査が可能です。
- **業務自動化:** 電話自動発信機能を含む現実世界とのインタラクション能力により、予約や問い合わせなど実務的なタスクの自動化が実現できます。
- **日本市場特化:** 日本語コンテンツの網羅性が高く、国内市場向けのリサーチに特に適しています。
- **柔軟なタスク処理:** 「Mixture-of-Agents」アーキテクチャによる適材適所のモデル選択で、多様なビジネスタスクに対応できます。

特に、日本企業での利用を想定した場合、言語面での障壁が低く、国内情報の収集精度が高いことから、導入しやすいサービスといえます Note<sup>5</sup>。

##### OpenAI Deep Research :

OpenAI Deep Research のビジネス利用における強みは以下の通りです :

- **高度なデータ分析:** Python 環境を活用した統計解析やデータビジュアライゼーションにより、意思決定の根拠となる深い洞察を提供します。
- **複数形式ファイルの統合解析:** PDF、表計算ファイル、画像など多様なビジネス文書を統合的に分析できます。
- **信頼性の担保:** 情報の出典を明示し、検証可能な形式でのレポート作成により、意思決定の透明性を確保します。
- **専門分野への適応:** 金融分析やマーケット調査など、専門性の高い分野での高精度な分析が可能です。

特に、データドリブンな意思決定や専門的な市場分析が求められる企業において効果を発揮します Qiita<sup>3</sup>。

#### Manus AI :

Manus のビジネス利用における特徴は以下の通りです :

- **完全自律型タスク実行:** ユーザーが目標を設定するだけで、計画から実行まで一貫して処理できるため、業務効率が大幅に向上します。
- **バックグラウンド処理:** 非同期処理により、複雑なタスクをバックグラウンドで実行しながら、他の業務を継続できます。
- **ウェブ操作の自動化:** ウェブサイト上での情報収集や操作を自動化し、日常的な定型業務を効率化します。
- **データ処理・分析:** Excel などを用いたデータ処理や財務分析レポートの作成など、実務的なドキュメント生成が可能です。

特に、反復的なタスクの自動化や複数のステップを要する業務の一貫した処理において価値を発揮します TechTrends<sup>4</sup>。

#### 総合評価 :

ビジネス利用適性の観点では、各サービスが異なる強みを持っています :

- **国内ビジネス向け:** Genspark スーパーエージェントが日本語対応と国内情報収集の精度で優位。
- **データ分析・専門調査:** OpenAI Deep Research が複雑なデータ分析と専門分野の調査で最適。
- **業務自動化・効率化:** Manus が複数ステップのタスク自動化と非同期処理で効率的。

企業の規模、業種、具体的な用途に応じて最適なサービスは異なりますが、日本企業の一般的なビジネス利用では Genspark スーパーエージェントの使いやすさと日本語対応の充実度が評価される可能性が高いでしょう。

#### 研究用途適性

##### Genspark スーパーエージェント :

研究用途においては、Genspark スーパーエージェントは以下の点で価値を提供します :

- **情報の網羅性:** 複数の情報源から広範囲のデータを収集し、包括的な文献調査をサポートします。
- **日本語文献の強み:** 特に日本語の学術資料や文献に関する情報収集能力が高く、国内研究には大きな強みになります。
- **情報の構造化:** カスタムの Sparkpage による情報の整理・構造化により、研究内容の把握と整理が容易になります。
- **対話的情報編集:** 収集した情報を対話的に編集・追加できる機能により、研究者の思考プロセスに沿った情報整理が可能です。

特に日本国内の研究や、日本語文献を多く参照する必要がある研究分野において効力を発

揮します Note5。

### OpenAI Deep Research :

OpenAI Deep Research は研究用途において以下の強みがあります :

- **学術的深さ:** 専門分野における深い分析と、複雑な問いに対する多角的アプローチが可能です。
- **出典の明示:** すべての情報に出典が明示されるため、学術的信頼性が担保されます。
- **Python によるデータ解析:** 統計処理やグラフ作成などの研究データ分析において高い能力を持ちます。
- **複雑な仮説検証:** 複数のソースからの情報を統合し、研究仮説の検証を支援します。

特に、英語圏の学術情報や最新の研究動向の調査において高い性能を発揮します Qiita3。

### Manus AI :

Manus の研究用途における特徴は以下の通りです :

- **自律的な情報収集:** 特定の研究テーマに関する情報を自律的に収集し、整理します。
- **データ処理の自動化:** 研究データの処理やグラフ作成、統計分析などの作業を自動化します。
- **研究プロセスの可視化:** 思考プロセスの可視化機能により、研究の進行状況や論理構造を明確にします。
- **教育資料の作成:** 研究内容を基にした教育コンテンツや説明資料の自動生成をサポートします。

複雑な研究作業を一連のプロセスとして自動化する能力が特徴です TechTrends4。

### 総合評価 :

研究用途の適性という観点では、各サービスに以下のような特性があります :

- **国内研究・日本語文献:** Genspark スーパーエージェントが最も適しています。
- **専門的学術研究・論文調査:** OpenAI Deep Research が高度な分析力と学術的信頼性で優位です。
- **研究作業の自動化:** Manus が複雑な研究プロセスの自動化と透明性で強みを持ちます。

研究分野や言語的要件、具体的な研究タスクに応じて最適なツールは異なりますが、特に学術的厳密性と分析の深さが求められる研究では OpenAI Deep Research の能力が評価されるでしょう。一方、日本語の文献を多く扱う研究では Genspark スーパーエージェントの方が適している場合があります。

## 5. Google 等の未参入企業の動向

### Google の AI エージェント戦略

#### Google Gemini Advanced Deep Research :

Google は 2025 年 1 月に Gemini Advanced の新機能として Deep Research を日本語で利用可能にしました。この機能は、AI を活用して複雑なトピックのリサーチと、包括的なレポ

ートの作成を自動化するもので、OpenAI の Deep Research と類似の機能を提供しています Google Blog<sup>11</sup>。

主な特徴：

- ユーザーのプロンプトから複数段階のリサーチプランを自動生成
- ウェブ全体からの関連情報収集と詳細分析
- 高度な推論機能と 100 万トークンのコンテキストウィンドウによる処理
- MBA 留学、ビジネス競合分析、マーケティングキャンペーン調査などの実用例

#### Agent Development Kit：

さらに 2025 年 4 月には、Google Cloud Next 2025 で「Agent Development Kit」をオープンソースで公開することを発表しました。このキットは AI エージェントの開発を容易にするフレームワークで、エージェントの動作を正確に制御しながら 100 行未満の直感的なコードで AI エージェントを構築できる仕組みを提供します Publickey<sup>12</sup>。

主な特徴：

- 複数 AI モデルへの対応（Gemini、Vertex AI の Model Garden から 200 以上のモデル）
- Model Context Protocol（MCP）のサポート
- 決定論的ガードレールとオーケストレーション制御
- 双方向オーディオ・ビデオストリーミング機能
- 多様なデプロイ環境（ローカル、Cloud Run、Kubernetes、Vertex AI）

#### マルチエージェントと Agent2Agent：

また、Google Cloud は「Agent2Agent」（A2A）という複数の AI エージェントを連携させるオープンプロトコルも発表しています。これにより、異なるフレームワークやプロバイダーで構築された AI エージェント間の相互運用が可能になり、複雑なタスクをエージェント間で分担して処理するマルチエージェントシステムの構築が容易になります Publickey<sup>13</sup>。

#### Google の AI エージェント市場参入の展望：

Google は以上の技術展開から、AI エージェント市場において以下のような戦略を展開していると推測されます：

1. **基盤技術の提供:** Agent Development Kit のようなオープンソースツールにより、エコシステムの拡大を図る
2. **標準化の推進:** MCP や A2A プロトコルなどの標準化により、業界全体の方向性に影響力を持つ
3. **既存サービスとの統合:** Google Workspace などのサービスと AI エージェント技術を統合し、差別化を図る
4. **日本市場の重視:** Gemini Deep Research の日本語対応など、日本市場を重要視している

今後は独自のエンドユーザー向け AI エージェントの提供だけでなく、企業や開発者がカス

タム AI エージェントを構築するためのプラットフォームとしての役割を強化していくと予想されます。

### その他主要企業の動向

#### Microsoft :

Microsoft は「Copilot」ブランドのもと、Windows、Office、Edge、Bing、Teams など多くの製品に AI アシスタント機能を統合しています。特に業務用途に強みを持ち、Office 製品との深い統合により、ビジネスシーンでの文書作成や情報分析を支援しています。また、Windows Copilot は操作支援にとどまらず、アプリ間の連携や自動化も可能にしつつあります。

日本市場では、2025 年初頭から Microsoft 365 Copilot の日本語対応を強化しており、企業導入を積極的に推進しています。AI エージェント市場での差別化要因は、既存の Microsoft 製品エコシステムとの緊密な統合にあります。

#### Amazon :

Amazon は「Amazon Q」という AI アシスタントを AWS 向けに提供し、クラウドインフラの運用・管理を支援しています。また一般消費者向けには、Alexa 機能を強化し、スマートホーム連携やショッピング機能を拡張するなど、AI エージェントとしての能力を高めています。

特に注目すべきは、2025 年初めに発表された「Alexa AI」で、これまでの単純な音声コマンド実行から、より自然な会話と複雑なタスク処理が可能になっています。日本市場では、Alexa の普及率が高く、この基盤を活かした AI エージェント戦略が展開されつつあります。

#### Meta (旧 Facebook) :

Meta は 2024 年後半に「Meta AI」を発表し、WhatsApp、Instagram、Facebook などの自社プラットフォーム全体に AI アシスタント機能を統合しています。特に強みはソーシャルメディアとの連携や、メタバース環境での AI エージェント活用です。

日本市場では、特に Instagram の普及率が高いことを活かし、同プラットフォーム上での AI アシスタント機能を先行して展開しています。Meta AI の特徴は、ソーシャルコンテキストを理解した応答や、クリエイティブコンテンツの生成支援にあります。

#### Apple :

Apple は 2025 年初頭に「Apple Intelligence」を発表し、iOS や macOS などのプラットフォームに段階的に AI 機能を統合しています。特に Siri の大幅な機能強化により、より複雑なタスク理解と実行が可能になっています。

Apple 独自の強みはプライバシー重視の設計とデバイス内処理の最適化にあり、ユーザーデータをクラウドに送信せずに AI エージェント機能を提供する点で差別化を図っています。日本市場では iPhone の高いシェアを基盤に、AI エージェント機能の普及を進めています。

#### 未参入企業の市場参入予測 :

上記の主要テクノロジー企業に加え、以下の企業も今後 AI エージェント市場に参入する可

能性があります：

- **ソフトバンク:** Arm 技術を活用したエッジ AI デバイスとエージェント連携
- **任天堂:** ゲーム体験を拡張する AI エージェント
- **ソニー:** エンターテインメント領域での AI エージェント活用
- **日本の SIer 各社:** 企業向けカスタム AI エージェントソリューション

特に日本市場では、プライバシーやセキュリティへの配慮、日本語処理の精度、ローカルビジネス習慣への適応が差別化ポイントになると予想されます。

## 6. AI エージェントの将来展望

### 技術的進化の方向性

#### 自律性と判断力の向上：

AI エージェントの技術的進化において、最も重要な方向性は自律性と判断力の向上です。現在の AI エージェントは、情報収集や単純なタスク実行において一定の自律性を持っていますが、今後数年で複雑な状況判断や意思決定の能力が飛躍的に向上すると予想されます。2026 年までに、エージェントはユーザーの過去の行動パターンや好みを学習し、状況に応じて適切な判断を下せるようになる見られています。例えば、「出張の計画を立てて」という曖昧な指示から、ユーザーの過去の好みや予算制約、スケジュールを考慮した最適な計画を自律的に立案できるようになるでしょう [MRI14](#)。

#### マルチモーダル対応の拡大：

テキストだけでなく、音声、画像、動画、センサーデータなど多様な入出力モダリティに対応するマルチモーダル AI エージェントの発展が予想されます。Google の Gemini 2.0 や OpenAI の GPT-5 モデルはすでにこの方向へ進化しており、2026 年には音声による自然な会話、映像の理解と生成、さらには環境センサーとの連携など、人間の自然なインタラクションに近い形でのエージェント操作が一般化すると見られています。

特に音声インターフェースの進化により、電話による予約代行など実世界とのインタラクションがさらに自然で効率的になるでしょう。

#### 専門領域特化型エージェントの台頭：

汎用 AI エージェントの発展と並行して、特定の専門領域に特化した AI エージェントの台頭も予想されます。法務、医療、金融、教育など高度な専門知識が必要な分野において、その領域に最適化されたエージェントが登場するでしょう。

例えば、医療分野では患者データや医学文献を統合的に分析し、診断支援や治療計画の提案を行うエージェント、法務分野では法律文書の解析や契約書のリスク評価を行うエージェントなど、専門家の判断を支援する高度なツールとしての進化が期待されます [Gartner15](#)。

#### エージェント間協調と相互運用性：

Google の Agent2Agent プロトコルに見られるように、複数の AI エージェントが協調して複雑なタスクを処理する「マルチエージェントシステム」の発展が予想されます。異なる専門性や能力を持つエージェントが連携することで、単一エージェントでは困難な複雑な問

題解決が可能になります。

2026年までに、企業環境では複数の AI エージェントを統合管理するプラットフォームが普及し、例えばデータ分析、レポート作成、スケジュール調整など異なるタスクを担当するエージェントが連携して、一連の業務プロセスを自動化することが可能になるでしょう [Publickey113](#)。

#### オープンエコシステムの発展：

AI エージェント技術のオープン化と標準化が進み、カスタムエージェントの開発が容易になると予想されます。Google の Agent Development Kit や Model Context Protocol (MCP) のような標準的なフレームワークやプロトコルが普及することで、サードパーティ開発者によるエコシステムが発展するでしょう。

これにより、大企業だけでなく、中小企業や個人開発者も独自の AI エージェントを開発・展開できるようになり、多様なニーズに対応したエージェントが登場すると考えられます。

#### 日本市場での展開予測

##### 日本企業の AI エージェント導入加速：

三菱総合研究所の調査によると、日本企業における生成 AI 関連サービスの利用率は 2023 年 12 月の 25.5% から 2025 年 1 月には 45.7% に倍増しています。この傾向が継続すれば、2026 年末までには大企業の約 70% が AI エージェントを何らかの形で業務に取り入れると予想されます [MRI14](#)。

特に、人手不足が深刻な日本企業において、業務効率化とコスト削減を目的とした AI エージェントの導入が進むでしょう。具体的には、カスタマーサポート、バックオフィス業務、情報収集・分析などの分野で活用が進むと見られています。

##### 日本語処理の高度化と普及：

日本語対応の精度と深さが AI エージェント選択の重要な決定要因となります。現在でも Genspark スーパーエージェント、OpenAI Deep Research、Google Gemini Deep Research などは日本語対応していますが、2026 年までにはさらに高度な日本語理解と生成能力を持つエージェントが登場すると予想されます。

特に日本特有の文化的背景や商慣習、文脈依存性の高いコミュニケーションスタイルを理解し、適切に対応できるエージェントが市場で優位性を持つでしょう [Note5](#)。

##### 産業別 AI エージェント活用の進展：

日本市場では、以下の産業分野での AI エージェント活用が特に進展すると予想されます：

- **金融サービス:** 投資分析、リスク評価、規制対応などの高度な分析が求められる分野で、AI エージェントによる業務支援が普及します。
- **製造業:** サプライチェーン最適化、品質管理データ分析、設計支援などに特化したエージェントの導入が進むでしょう。
- **医療・ヘルスケア:** 医療文献の分析、患者データの統合、診断支援などにおいて、高度な専門知識を持つエージェントの活用が期待されます。

- **小売・流通:** 在庫管理最適化、需要予測、顧客データ分析などの分野で、データドリブンな意思決定を支援するエージェントの導入が進むでしょう。

特に 2026 年以降は、業界特化型のカスタム AI エージェントソリューションが増加し、業種ごとの固有ニーズに対応する動きが活発化すると予想されます Gartner<sup>15</sup>。

#### 「AI 活用格差」の拡大と対策：

AI エージェント技術の進化と普及に伴い、これらを積極的に導入する企業とそうでない企業の間で「AI 活用格差」が拡大する懸念があります。三菱総合研究所のオピニオンによれば、AI に果敢に取り組む企業と距離を置く企業の間で、生産性や商品・サービス開発の競争力格差も拡大する可能性があります MRI<sup>14</sup>。

この課題に対応するため、日本政府や業界団体による AI 人材育成、中小企業向けの AI 導入支援などの取り組みが加速すると予想されます。また、使いやすさを重視した日本企業向けの AI エージェントサービスが増加し、技術導入の敷居が下がる可能性もあります。

#### 独自の規制と標準化の動き：

日本市場では、AI エージェントの普及に伴い、プライバシー保護やセキュリティ確保、責任所在の明確化などに関する独自の規制や業界標準の整備が進むと予想されます。特に金融や医療など高い信頼性が求められる分野では、AI エージェントの使用に関するガイドラインや認証制度などが登場する可能性があります。

日本企業が独自に開発する AI エージェントソリューションにおいては、こうした国内規制や基準への適合性が重要な差別化要因となるでしょう。

## 7. まとめ

本レポートでは、Genspark スーパーエージェント、OpenAI Deep Research、Manus AI という 3 つの先進的な AI エージェントを多角的に比較検討しました。各サービスには以下のような特徴があります：

#### Genspark スーパーエージェント：

- 自律的なタスク実行と電話自動発信機能による実世界とのインタラクション
- 日本語対応の充実と国内情報の網羅性
- 「Mixture-of-Agents」アーキテクチャによる柔軟なタスク処理
- 現時点では基本機能が無料で利用可能

#### OpenAI Deep Research：

- 専門分野の深い分析と学術的信頼性
- Python によるデータ解析とビジュアライゼーション
- 複数の情報源・ファイル形式の統合解析
- 月額 20 ドル (Plus) または 200 ドル (Pro) の料金体系

#### Manus AI：

- 完全自律型の計画立案と実行能力
- 非同期処理によるバックグラウンドでのタスク実行

- 思考プロセスの可視化による透明性
- 月額 39 ドル (Starter) または 199 ドル (Pro) の料金体系

#### 活用シナリオ別の適性：

- **ビジネス利用:** 日本企業の一般的ビジネス利用では Genspark の使いやすさと日本語対応が有利。専門的データ分析には OpenAI Deep Research、業務自動化には Manus が強み。
- **研究用途:** 日本語文献研究には Genspark、専門的学術研究には OpenAI Deep Research、研究作業の自動化には Manus が適している。

また、Google をはじめとする AI エージェント市場への参入企業の動向も注目されます。Google は Gemini Advanced Deep Research、Agent Development Kit、Agent2Agent などの技術を展開し、AI エージェント開発のエコシステム形成を進めています。Microsoft、Amazon、Meta、Apple など独自の AI エージェント戦略を展開中です。

将来展望としては、AI エージェントの自律性と判断力の向上、マルチモーダル対応の拡大、専門領域特化型エージェントの台頭、エージェント間協調と相互運用性の発展、オープンエコシステムの形成などが予想されます。

日本市場においては、AI エージェント導入の加速、日本語処理の高度化、産業別の特化型活用の進展などが見込まれる一方、「AI 活用格差」の拡大と対策、独自の規制と標準化の動きなども注目すべき点です。

各組織は自身のニーズ（ビジネス・研究用途、日本語対応の重要度、予算など）に応じて最適なサービスを選択することが重要です。また、急速に進化する AI エージェント市場の動向を継続的に監視し、新たな機能や可能性に対応していくことが求められます。

---

#### Appendix: Supplementary Video Resources



Genspark スーパーエージェントって AI が凄すぎた！一発で ...

1 week ago



自律型 AI エージェント！Manus が凄かったので解説してみた

3 weeks ago



OpenAI Operator 爆誕【AI エージェント】実際に使って検証してみ ...

Jan 24, 2025

もっと詳しく

1

[yoroziipsc.com](http://yoroziipsc.com)

2

[www.genspark.ai](http://www.genspark.ai)

3

[qiita.com](http://qiita.com)

4

[techtrends.jp](http://techtrends.jp)

5

[note.com](http://note.com)

6

[www.genspark.ai](http://www.genspark.ai)

7

[www.bloomberg.co.jp](http://www.bloomberg.co.jp)

8

[www.genspark.ai](http://www.genspark.ai)

9

[www.itmedia.co.jp](http://www.itmedia.co.jp)

10

[www.genspark.ai](http://www.genspark.ai)

11

[blog.google](http://blog.google)

12

[www.publickey1.jp](http://www.publickey1.jp)

13

[www.publickey1.jp](http://www.publickey1.jp)

14

[www.mri.co.jp](http://www.mri.co.jp)

15

[www.gartner.co.jp](http://www.gartner.co.jp)